

2025年デフリンピック大会「デフリンピック運営委員会」の人事について

一般財団法人全日本ろうあ連盟は、今年4月1日に連盟内部の「デフリンピック準備室」を改編し、デフリンピック運営委員会（以下、「運営委員会」）を設置しました。当委員会は、2025年に開催される第25回夏季デフリンピック競技大会の準備及び運営に関する事業を行います。

運営委員会の設置に際し、今年3月に運営委員選考委員会を開催し、選考委員会から推薦された運営委員を当連盟理事会にて承認しました。

そして、この運営委員による最初の運営委員会が今年4月12日に開催され、委員の互選により、委員長に久松三二（一般財団法人全日本ろうあ連盟常任理事）、副委員長に薬師寺道代（医師）が選任され、事務局長に倉野直紀（デフリンピック運営委員会事務局）が任命されました。

デフリンピック運営委員会の人事は下記のとおりです。

記

【デフリンピック運営委員会 人事】

委員長

久松 三二	一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事
-------	---------------------

副委員長

薬師寺 道代	医師
--------	----

委員

石原 保志	国立大学法人 筑波技術大学 学長
延與 桂	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長
太田 陽介	一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事
畑中 淳子	弁護士
早瀬 久美	デフリンピック選手
横山 英樹	東京都生活文化スポーツ局長

事務局長

倉野 直紀	デフリンピック運営委員会事務局
-------	-----------------

【本件に関するお問合せ先】

一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会

事務局 倉野、藤川、杉石

e-mail : dp2025@jfd.or.jp

デフリンピック運営委員会運営委員の選任について

1. 運営委員の選考について

○外部有識者を含む委員で構成する「運営委員会運営委員選考委員会」（以下「運営委員選考委員会」という）を設置

○選任に係る考え方や基本方針、求められる資質、努力目標割合（障害当事者の割合を40%以上、女性の割合を40%以上、外部委員の割合を25%以上）などを定める「デフリンピック運営委員選考規程」を策定

○当該規程にもとづき、運営委員選考委員会において具体の候補者について選考を実施

○審査・決定した運営委員候補者について全日本ろうあ連盟理事会へ議題提示し、承認を得て決定

【委員の資格及び選考基準】

下記(1)～(3)の資格を満たし、かつ(4)～(8)の基準のいずれかを満たす者

(1)就任時において、原則として年齢が70歳未満であること

(2)運営委員会設立趣旨、理念および活動方針について深い見識を有し、それらを推進するにふさわしい人格を有すること

(3)尊法精神に富んでいること

(4)ガバナンス及びコンプライアンスに関する知識・経験を有すること

(5)デフリンピックの事業運営全般に関する知識・経験を有すること

(6)デフリンピックの気運醸成に関する知識・経験を有すること

(7)情報保障(手話言語を含む)に関する知識・経験を有すること

(8)競技運営や国際スポーツ大会に関する知識・経験を有すること

2. 運営委員選任理由一覧

※五十音順

氏名	役職等	選任理由
石原 保志	国立大学法人 筑波技術大学 学長	<ul style="list-style-type: none">・筑波技術大学の学長として、情報保障・手話通訳・要約筆記等の取り組みを推進しており、これらに関する知識・経験と、高いコンプライアンス意識を有している。・デフリンピック及びデフスポーツに関するイベントにも多く関わり、デフリンピックの気運醸成に関する知識・経験を有している。
延與 桂	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長	<ul style="list-style-type: none">・公務員としての豊富な行政経験があり、これまで数々の職務を積み重ねる中で、高いコンプライアンス意識をはじめ、都施策に関する深い理解を有している。・東京都オリンピック・パラリンピック準備局長として、東京 2020 大会の開催準備に携わった経験があり、国際スポーツ大会に関する豊富な知識・経験を有している。
太田 陽介	一般財団法人 全日本ろうあ連盟 理事（スポーツ委員会委員長）	<ul style="list-style-type: none">・全国ろうあ者体育大会やデフリンピックの選手団の役員・団長等の経験があり、国際スポーツ大会や気運醸成に関する豊富な知識・経験と、高いコンプライアンス意識を有している。・福岡県聴覚障害者センター施設長として、手話通訳の派遣・養成にも関わり、情報保障に関する知識・経験を有している。

氏名	役職等	選任理由
畑中 淳子	弁護士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弁護士として、ガバナンス・コンプライアンス問題に精通している。 ・ 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟の専務理事兼事務局長としてガバナンス・コンプライアンス面からスポーツ運営組織の運営等に貢献していることから、大会運営組織の組織運営や業務執行等について適切に関与することが期待できる。
早瀬 久美	デフリンピック選手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシストとしてアンチ・ドーピングの確立に取り組んでおり、コンプライアンスに関する知識を有している。 ・ デフアスリートとして自転車競技（ロード・マウンテンバイク）への参加経験があり、国際スポーツ大会に関する知識・経験を有している。
久松 三二	一般財団法人 全日本ろうあ連盟 常任理事（事務局長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局長、デフリンピック準備室室長、日本パラスポーツ協会理事としての経験があり、デフリンピックに関する豊富な知識・経験を有する。また、気運醸成や情報保障の推進等にも関わっている。 ・ 様々な法律に関わる業務経験があり、ガバナンス・コンプライアンスに関する知識・経験を有している。

氏名	役職等	選任理由
薬師寺 道代	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック議員連盟アンチドーピング法案作成ワーキングチームのメンバーとして「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法案」作成に携わった経験があり、ガバナンス・コンプライアンスに関する知見を有している。 ・日本選手団のメディカルチームスタッフとしてのデフリンピック参加経験や、日本パラスポーツ学会の理事としての経験があり、国際スポーツ大会、パラスポーツについての知識・経験を有している。
横山 英樹	東京都生活文化スポーツ局長	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員としての豊富な行政経験があり、高いコンプライアンス意識をはじめ、持続可能性などの社会的要請や健全な組織風土の形成に対する深い理解を有している。 ・東京2020大会における気運醸成や東京の魅力発信に取り組み、国際スポーツ大会に関して豊富な知識・経験を有している。